



輸血用血液製剤の安全性確保に係る 遡及調査業務について

ブロック血液センター品質保証課では輸血用血液製剤の安全性確保業務として、遡及調査を行っています。

遡及調査とは、献血後情報に基づき、献血血液から製造された血液製剤の情報、並びに当該製剤が投与された受血者の感染に係る情報等を収集し、それを科学的に分析評価することです。血液製剤の遡及調査については国のガイドラインが定められており、これに従って実施しています。

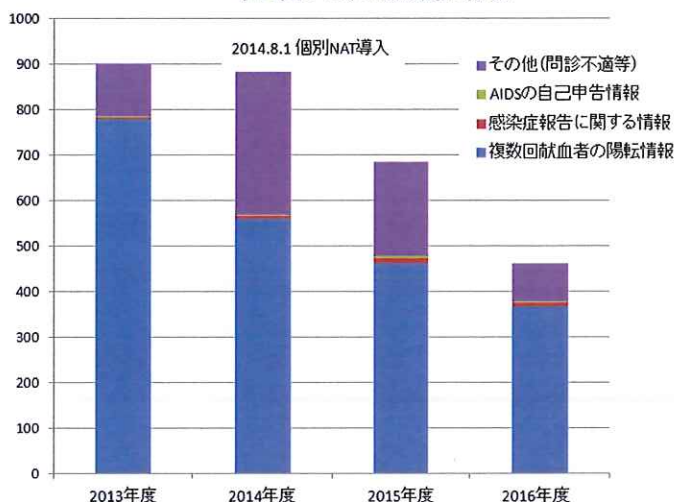
献血後情報には、献血者からの情報（AIDSの自己申告情報、複数回献血者の感染症検査陽転情報、献血者健康情報等）と、医療機関からの感染症報告に関する情報（医療機関から血液センターに報告された副作用・感染症報告のうち、使用した輸血用血液製剤により受血者の病原体感染が疑われる情報）があります。

中四国ブロック血液センターにおいては遡及調査実施内容の約8割を複数回献血者の感染症検査陽転情報が占めています。遡及調査対象判明時には、感染拡大防止のため、当該供血者に由来する輸血用血液製剤について、医療機関へ供給前であれば、供給を停止します。供給後で、且つ、当該輸血用血液製剤が有効期限内であれば、供給先の医療機関に対して、対象製剤の使用停止等の情報提供を行い、医療機関にて対象製剤が未使用の場合、早急に回収を行います。対象製剤が使用されていた場合、遡及対象献血血液の保管検体等の個別NAT実施結果と採血時期によってウイルス感染のリスク分類を実施後、対象製剤が供給された医療機関へ情報提供をし、医療機関から、受血者の情報を提供していただきます。

遡及調査は、受血者への感染拡大防止・早期治療、および、輸血用血液製剤の更なる安全性確保・向上に繋がります。遡及調査を円滑に行うため、今後も医療関係者の皆様のご協力を、よろしくお願い致します。

（中四国ブロック血液センター
品質保証課 矢舗久美）

中四国ブロック遡及調査件数



LOVE in Action 「ご当地大作戦 in 鳥取」開催報告!



皆さん、「LOVE in Action プロジェクト」はご存知でしょうか。

ロゴマーク大作戦・ラジオ大作戦・ご当地大作戦・コラボ大作戦・リンク大作戦の5つの大作戦から成り立っています。今回は、ご当地大作戦を2017年1月29日(日)LOVE in Action「ご当地大作戦 in 鳥取」をイオンモール日吉津で開催しました。



日本国内ではこの10年間で10～30代の献血者数が約30%も減少してしまっています。この状況を、何とか改善したいという強い思いのプロジェクトリーダーのラジオDJ山本シュウさんが、歌とトークと笑いを通じて献血の現状や必要性を、南は沖縄・北は北海道まで全国各地でイベントを開催し、若者に対して情報発信しています。

日本赤十字社の「LOVE in Action プロジェクト」を鳥取県で開催することになり、イオンモール日吉津・広告代理店の方々・赤十字本社・中四国ブロック血液センター・鳥取県赤十字血液センターと、たくさんの関係者の連携により計画されました。当日は広報活動のために、イベントへの呼びかけ、アンケート依頼、文書配布の人員を、献血推進に携わる地域の大学生ボランティアにお願いをしますが、鳥取県内には献血推進ボランティアがある大学が2校しかなく、しかも開催地から100kmも離れているため、都合が付かなく苦戦しました。鳥取県の人口569,579人は、中国四国地方で一番人口の多い広島県の約5分の1、これは中国四国最下位かつ全国最下位なのです。イベントには20名以上の協力者を計画しているため、急遽、地元の高等学校等へボランティア協力をお願いし、31名を確保する事ができました。大学生・高専生・高校生が協力し合っただけの活動、これぞコラボ大作戦だと思いました。



イベント内容は、LOVE in Actionプロジェクトリーダーの山本シュウさん、アナウンサーの川田裕美さん、エフエム山陰のアナウンサー淡路祐介さんに加え、ゲストにお笑いタレントのAMEMIYAさんとアーティストの川嶋あいさんを迎えて、トークとスペシャルライブで盛り上がりました。そして、イオン日吉津店内にある「献血ルームひえづ」の採血状況は、ボランティアのみなさんのおかげで、いつもの約2倍もの方々に献血協力をいただくことができました。関係者が、団結し行動したことで、若い世代を中心に沢山の方々と献血や命の大切さを一緒に考えるイベントを成功させられたと思います。

(鳥取県赤十字血液センター日吉津出張所 林 智久)